

## つなぶ。

さいちゅう  
レター2021年  
3・4月号  
vol.20

臨床検査技師

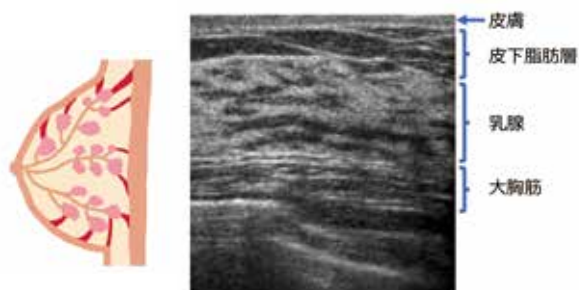
## 乳房を隅々まで診て異変の有無を調べる【乳腺エコー】

片谷 透子

自治体の検診では40歳以上を対象に、2年に1度のマンモグラフィ検査(および視触診)が行われます。一方、乳腺エコーは人間ドックのほか、症状があって受診した方、検診により精査が必要となった方に行われます。

## ■乳腺とは？

乳腺は乳汁、つまり母乳を分泌する器官で、乳房内の皮下脂肪に包まれるように存在します。乳腺は厚みが異なったり、脂肪組織の多い・少ないがあったり個人差が大きく、同一人物でも年齢やライフステージによって変化するのが特徴。例えば妊娠期は乳腺が厚みを増し皮下脂肪層が薄くなるのに対し、閉経後の乳腺は萎縮し脂肪組織のほうが多くなります。下の画像はエコーで映した乳腺とその周辺組織です。ヒョウ柄の模様で表示されているのが乳腺で、発達した乳腺は模様が大きく、萎縮した乳腺は模様が細かく映ります。



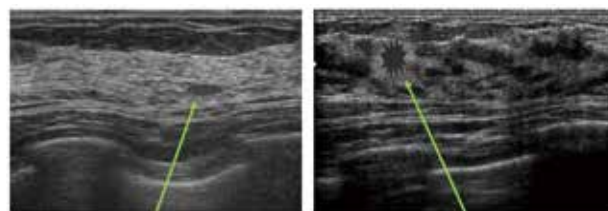
正常乳腺のエコー画像(30代)

## ■乳腺エコーではこんなことを診ている

エコーは人の耳には聞こえない高周波の音波を体に当て、それがどう反射・減衰し、戻ってくるかといった受信情報を画像化する検査です。乳腺エコーでは主にしこりそのものや、もやもやとした黒い影(低エコー域)を病変の候補として拾い上げ、さまざまな方向から超音波を当てて形や境界の様子、大きさ、圧迫した際の動き・硬さ、血流の有無や豊富さなどを観察。しこり状に映った脂肪の硬さを確認するために臨床検査技師が直接乳房に触れることもあります。また他の部位

や対側の乳房も観察しながら、正常な乳腺か、乳腺症や線維腺腫などの良性の病変か、もしくは乳がんなどの悪性の可能性が疑われる病変かを判別します。マンモグラフィーでは高濃度乳腺(注1)の場合、全体で白く映り腫瘤が見つげづらいのに対し、エコーではその影響はない利点があります。ただし、エコーはあくまで精密検査を行うべきかを判断する一つの手段。病変が疑われた場合は組織を採取し、病理診断を行います。

注1) 高濃度乳腺: 乳腺組織が豊富で脂肪組織が少ないときにマンモグラフィーでは白く濃く見える現象



病変イメージ

## ■自分の胸に関心を持つ「ブレストアウェアネス」

9人に1人が乳がんになるといわれる日本ですが、検診の受診率はアメリカが80%を超えるのに対し、41%と極めて低いのが現状。そこで知っていただきたい考え方が「ブレストアウェアネス」。乳房を見て、触れて、普段の状態を知っておく。しこりや皮膚のへこみ、血の混じった分泌物などの異変に早く気づく。異変に気づいたらすぐに医師へ相談する。40歳になったら乳がん検診を受ける。この4つの基本行動を実践し、乳がんからご自分を守っていただきたいと思います。



# 一般診療を守るための当院の運営方針について

院長 海老原 全

現在当院では、社会的要請により新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の診療を行っていますが、その軸足はあくまで通常の外来・入院治療(以下「一般診療」とします)にあり、今後もその方針に変わりはありません。しかし、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大状況にあって、病院機能を停止させることなく一般診療を守っていくために、一般診療の受け入れについてこまやかな調整を行う必要があると考えています。その調節作業について、以下「新型コロナウイルスの3つの入口と、その調節作業」に述べさせていただきます。

## 新型コロナウイルスの3つの入口と、その調節作業

新型コロナウイルスが病院に入ってくる入口は3つあります。

第1の入口：COVID-19の患者さんとともに入ってくるルート

第2の入口：外来診療で受診された患者さんに潜んで入ってくるルート

第3の入口：職員に潜んで入ってくるルート

病院機能を停止させることなく一般診療を守るためには、これらの入口をしっかり制御することが必要です。

第1の入口については、保健所等と連携を取りながら制御することができています。また、第3の入口についても、病院一丸となった職員一人ひとりの感染防止対策により現在まで制御できています。課題は第2の入口です。外来診療を継続する限り、受診される患者さんに潜んである割合で新型コロナウイルスが入ってきます。その数は、社会で感染が拡大するにつれて、増えてきます。そのため、潜み入ってくる新型コロナウイルスの状況を見ながら一般診療の受け入れ調節を行っています。また、当院では発熱症状がある患者さんが外来棟を利用される患者さんと接触することがないように、専用の動線と対応場所を設けておりますが、これも第2の入口の調節作業の一環です。今後も一般診療を継続していくために、職員一同最善を尽くしてまいります。

当院へお越しになる患者さん、地域医療機関の皆さんには、ご不便をおかけすることもあります。ご理解とご協力をいただき、どうか安心して受診いただけますよう、お願いいたします。



「なでしこ基金」へのご寄付ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

2020年12月～2021年1月

100万円…陳 科榮様、由井 克巳様

20万円…たにどうダンスワールド様

10万円…久富 保様・良子様、宮崎 雅浩様、匿名3組様

3万円…佐久間 毅様

1万円…塩谷 公朗様

37,514円…募金箱

◇2020年度前期「なでしこ基金」より下記品を購入いたしました。

1、AEDトレーニングユニット 2、自動体外除細動器 3、歯科用X線診断装置一式

ご報告とともにお礼申し上げます。院内で活用させていただきます

発行：海老原 全 編集：広報委員会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-17  
TEL:03-3451-8211 FAX:03-3457-7949



社会福祉法人 済生会支部 東京都済生会  
東京都済生会中央病院

